

バッジを製作した秋本さん(前列中央)、中村さん(同右)と中部大春日丘高インターアクトクラブの生徒たち=春日井市の同校で



子どもに障害があることを周囲の人に理解してもらおうと、春日井市の母親でつくる「ももやま会」が手作り缶バッジを販売している。代表の中村優子さん(右)＝岩野町二＝は、「バッジを着けている子を見かけたら、どうか温かい目で見守ってほしい」と話す。

(浅野有紀)

# 母親団体、缶バッジ販売

## 春日井 障害児 温かく見守って

発達障害や知的障害は「由がある」と分かっていても見た目では分かりづらい。そのため、身に着けられるマークがないかインターネットを検索すると、県外では手作り販売する母親は少なくない。

中村さんは、小学二年の三男が広汎性発達障害。病院の待合室で急に

大声を上げたり、すれ違った人の体を触ってしまった。周囲から冷ややかな目で見られ、「いつ

も、ごめんなさいと謝ってばかり。』出掛けるのが怖い」という母親もいる」と話す。

「変わった行動には理

「見守ってくれてあ

無料)で販売している。バッジのことを知った北九州市や京都市など全国の母親から注文が相次ぎ、百三十個が売れた。

親子で身に着けている母親からは「心が少し軽くなった」との感想が寄せられた。すぐに障害者だと分からなくてもバッジを見た人の視線は、

「何か理由があるんだな」という配慮した目で見られる感じがする」という。子どもが文字あり、

母親が文字なしをペアで付ける例が多い。中村さんは「一人でも多くの人に、バッジの意味が広まってほしい」と願う。

購入は、ももやま会へメールで注文する。活動に協力する春日井市の中部大春日丘高インターアクトクラブの生徒は十

四、十五日の学祭や十月の春日井まつりなどで販売する。

「ももやま会」=mom oyama\_kai@yahoo.co.jp

周りの配慮への感謝を表している缶バッジ

りがどう」と言葉を添え、キーホルダー型とピンバッジ型を製作。それぞれ文字無しもある。一個三百円(税込み、送料

無料)で販売している。バッジのことを知った北九州市や京都市など全国の母親から注文が相次ぎ、百三十個が売れた。親子で身に着けている母親からは「心が少し軽くなった」との感想が寄せられた。すぐに障害者だと分からなくてもバッジを見た人の視線は、

「何か理由があるんだな」という配慮した目で見られる感じがする」という。子どもが文字あり、

母親が文字なしをペアで付ける例が多い。中村さんは「一人でも多くの人に、バッジの意味が広まってほしい」と願う。

購入は、ももやま会へメールで注文する。活動に協力する春日井市の中部大春日丘高インターアクトクラブの生徒は十

四、十五日の学祭や十月の春日井まつりなどで販売する。

「ももやま会」=mom oyama\_kai@yahoo.co.jp